



## ごあいさつ

東京都知事 小池 百合子

第23回東京都障害者スポーツ大会が、公益社団法人東京都障害者スポーツ協会と東京都の共催により、開催できますことを大変嬉しく思います。

この大会は「身体」「知的」「精神」の3つの部門で競技を行う、都内最大規模のパラスポーツの祭典です。障害のある人がスポーツを通じて体力の維持増進、社会への参加及び相互交流の促進を図り、自立促進とスポーツ振興に寄与することを目的としています。

選手の皆様が、本大会への出場を契機として活躍の場を広げ、また、他の選手との交流を通じて、競技生活がより豊かなものになることを願っております。コロナ禍で、活動に様々な制約があったかと思いますが、日頃の練習の成果を発揮し、10月の第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」への出場を目指して頑張りましょう。

昨年夏には、東京2020パラリンピック競技大会が開催され、東京都は2回目の夏季パラリンピックを開催した、世界で初めての都市となりました。

自らの限界を超えて躍動したパラリンピアンのはたらきは、まさに、一人ひとりの違いこそが、大いなる輝きを生み出し、どんな困難も乗り越える力となることを、我々に示してくれました。東京都は大会後も、身近な活動の場や機会の確保、それを支える人材育成などを柱にパラスポーツを至るところに根付かせてまいります。そして、障害の有無にかかわらず、誰もがスポーツを楽しめる「スポーツフィールド・東京」を実現いたします。引き続き皆様の御協力をお願い申し上げます。

結びに、本大会の開催に御尽力いただいた関係者の皆様に心から感謝を申し上げますとともに、本大会の成功がパラスポーツの一層の発展につながることを祈念し、挨拶いたします。



## ご挨拶

公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会  
会長 白石 弥生子

第23回東京都障害者スポーツ大会が関係者の皆様のご協力とご理解のもとで開催されますことに対しまして、主催者の一人として心から感謝申し上げます。

本大会は、10月に開催されます第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」への派遣選手選考会を兼ねており、毎年多数の選手が参加する都内最大の障害者スポーツ大会です。

さて、新型コロナウイルスの影響により、昨年度の東京都障害者スポーツ大会は、「スポーツの集い」及びオープン競技を除いて、全ての競技が中止となってしまいました。参加を予定していた選手の皆様の悔しさを思うと残念でなりません。

この間、様々な感染対策が講じられ、国内のスポーツイベントは以前の賑わいを取り戻しつつあります。本大会におきましても感染予防対策を講じて実施してまいります。

選手の皆様におかれましては、十分なトレーニングができない状況もあるかと思いますが、持てる力を存分に発揮し、競技されることを期待しております。

スポーツは、健康の維持・増進や人生に潤いを与える世界共通の人類の文化です。当協会は、東京都内の障害者スポーツ振興の中核組織として、障害のある人が「いつでも どこでも いつまでも～すすめます！スポーツをもっと身近に～」をスローガンに、今日まで障害者スポーツの普及・振興に邁進してまいりました。昨年開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として高まった障害者スポーツへの関心を根付かせていくとともに、障害の有無や種別を問わず誰もがスポーツを楽しむことのできる、スポーツを通じた共生社会の実現に向け、東京都と一体となって引き続き様々な取組を行ってまいります。今後とも変わらぬご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

終わりに、本大会のために多大なご支援をくださいました大勢の方々に対しまして心より感謝申し上げますとともに、重ねて選手の皆様のご健闘を祈念しまして挨拶といたします。



## ごあいさつ

特別区長会会長  
江東区長 山崎 孝明

第23回東京都障害者スポーツ大会の開催を心からお慶び申し上げます。

この大会は、多くの選手が参加する、国内最大規模を誇る「障がい者スポーツの祭典」であります。今回で第23回目を迎える本大会は、さまざまな障がいを乗り越えて活躍されている選手だけでなく、ボランティアの皆さんも含めた多くの関係者が集い、年々大きな輪となっております。

本大会の開会式が東京を代表するスポーツ大会として伝統のある「都民体育大会」と合同で開催されることは、障がいのある人とない人がお互いのスポーツ競技への理解をより一層深めることにつながり、すべての人がスポーツのもとで、ひとつの大輪となり発展していく象徴だと思っております。

さて、去年は東京でオリンピック・パラリンピックが開催され、引き続き今年も北京でオリンピック・パラリンピック冬季大会が開催されました。参加した選手の皆さんがスポーツに真摯に向き合う姿は、私たちに多くの感動と勇気をもたらしてくれました。また、両大会を契機に共生社会への関心もこれまで以上に高まっています。

特別区長会は引き続き、パラリンピアンや障がい者スポーツの環境づくり、一般の障がい者スポーツのさらなる普及促進のために取り組むとともに、障がいについての理解を推進するために、こころのバリアフリーについても全力をあげて取り組んでまいります。

特別区は今後とも、障がいのある方々が、住みなれた地域で安心して末永く質の高い生活を送っていただけるように、障がい者スポーツの振興を含めた障がい者施策の充実に努め、誰もが幸せを実感できる共生の地域社会の実現を目指してまいります。

どうか皆様もスポーツを通して友情と交流を育まれ、連帯と支え合いの輪を地域に広げていただくことをご期待申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、様々な感染予防対策を行いながら、制約のある環境下で鍛錬を積んできた選手、大会運営にあたっているスタッフの皆さん、そして諸団体、ボランティアの皆さんのご努力とご協力に深く敬意を表すとともに、大会の成功と皆様のご活躍を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



## 第23回東京都障害者スポーツ大会開催を祝して

東京都市長会会長

町田市長 石 阪 丈 一

「第23回東京都障害者スポーツ大会」が多くの皆様のご参加により、盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

本大会は、選手の皆様が、日頃積み重ねてきた練習の成果を発揮するとともに、競技を通じて多くの人々と交流の輪を広げる大きな機会であります。

例年、ハンディキャップをお持ちの多くの選手やボランティアの方々が参加し、国内最大規模の大会として開催できますのも、偏に関係者の皆様の熱い想いと、それに応える選手の皆様との交流の輪が大きな礎となっていることにほかなりません。

大会では、ひたむきに努力を重ね困難や障害を克服する選手の方々の姿が、多くの人々の心を揺さぶり、障害者スポーツの魅力をあますことなく伝えてくれるものと思います。

昨年7月から9月にかけて、コロナ禍での1年の延期を経て東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、オリンピックにおいては日本史上最多の58個、パラリンピックにおいても51個のメダルを獲得しました。この東京で開催されたパラリンピックの大舞台での活躍により、障害者スポーツの普及に一層拍車がかかったことと思います。

また、皆様の記憶に新しいところでは、本年2月から3月にかけて、中国の北京において北京2022オリンピック・パラリンピック冬季競技大会が開催されました。日本選手団は、オリンピックが冬季競技大会での日本史上最多の18個、パラリンピックにおいても7個のメダルを獲得し、日本中が大きな喜びと感動に包まれました。

東京都市長会といたしましても、活力あふれる共生社会の実現に向けて、障害者福祉のより一層の増進に努めるとともに、障害がある人もない人も共に暮らしやすいまちづくりに向けて、全力で取り組んで参ります。

結びに、本大会を運営されるスタッフ、ボランティアの皆様のご尽力に対し、深く敬意を表しますとともに、選手の皆様のご活躍と本大会の成功を心からお祈りしてご挨拶とさせていただきます。



## ご挨拶

東京都町村会会長

瑞穂町長 杉浦 裕之

第23回東京都障害者スポーツ大会が盛大に開催されることを心からお慶び申し上げます。

令和3年7月23日から東京2020オリンピック競技大会が、8月24日から東京2020パラリンピック競技大会が開催され、世界各国から集まったトップアスリートが世界最高峰の場で体力の限界に挑んだ姿は、私たちに大きな感動を与えてくれました。多くの子供達が目標を持ち、挑戦することの素晴らしさを学んだことと思います。

世界は、コロナ禍というかつてない厳しい状況にあり、我が国においても最前線で治療に取り組んでおられる医療関係者の方々はもちろん、多くの方々が感染症拡大の防止に向けて、昼夜を問わず懸命に取り組んでおられます。東京2020パラリンピック競技大会をはじめ、障害のあるアスリートの皆様がひたむきに競技に打ち込んでいる姿は、そうした方々に、大きな勇気と希望を与えるものであり、また、コロナ禍の中で様々な不安を抱える全ての方々の心の支えとなっていることでしょう。

東京都町村会といたしましても、障害者スポーツのより一層の振興に努めるとともに、障害のある方々が、住み慣れた地域で安心して生活できる地域社会を確立するなど、誰もが幸せを実感できる共生社会の実現に向け、全力で取り組んでまいります。

第23回東京都障害者スポーツ大会は、第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」の代表選手選考会を兼ねて開催されます。それぞれの選手が自らの障害を克服して活躍する姿を通じて、多くの皆様に勇気と感動を与えるとともに、障害者スポーツの魅力を西多摩地域や島しょ地域を含む都内全域に伝えることができる大会になるものと確信いたしております。

最後に、本大会の開催にご尽力いただいた多くの関係者やボランティアの方々に深く感謝申し上げますとともに、大会の成功と選手の皆様の益々のご健勝、ご活躍を心からお祈りいたしまして挨拶とさせていただきます。



## 第23回東京都障害者スポーツ大会に寄せて

公益社団法人東京都身体障害者団体連合会  
会長 小西 慶一

「第23回東京都障害者スポーツ大会」が多くの方々の参加を得て、開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

昨年開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会、そして3月4日（金）から13日（日）に開催された北京2022冬季パラリンピック競技大会での日本選手、今回は特にウクライナの選手の活躍にはテレビの映像を通して、私は多くの感動を受けました。

そして、日々の何気ない日常生活の大切さも痛いほど伝わりました。

十一年前の東日本大震災、二年に及ぶ新型コロナウイルスとの共存等、障害の有無に関わらず、経済、孤独等心の問題にも大きく影響を及ぼしていますが、ご家族やサポーターの皆様、「人」の文字に表されたお互いを支えあう姿に「障害者スポーツ」の原点があるように思われます。

このことは障害者がスポーツに親しむ原動力として、自立と社会参加、共生社会の方向性を国内外に示す重要な意味があると思います。

今大会に参加される選手の皆様、日頃の練習の成果を思う存分発揮し、本年10月に開催される第22回全国障害者スポーツ大会「とちぎ大会」に東京都代表として出場することを目指して、頑張ってくださいと思います。私達も応援しております。

そして、目標を高く持ち、その先にあるものを目指して、選手として出場することへの希望を繋げてください。

また、東京都障害者総合スポーツセンター並びに東京都多摩障害者スポーツセンターをご活用されまして、多くの方々との「ふれあい」を大切に、コミュニケーションを広げてください。

末筆になりますが、本年も新型コロナウイルス感染症への対策をとり、選手並びに関係者の皆様の安全に配慮した大会の準備等に、ご尽力をいただきました大会関係者及びボランティアの皆様にご心より敬意を表し、公益社団法人東京都障害者スポーツ協会の益々のご発展と大会の成功をお祈り申し上げます。挨拶といたします。



## 第23回東京都障害者スポーツ大会に寄せて

社会福祉法人 東京都手をつなぐ育成会  
理事長 佐々木 桃子

東京都障害者スポーツ大会が東京都ならびに多くの関係者の皆様のご支援、ご協力のもと開催されることに心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、二年続けて大会開催を中止せざるを得ない状況にあったことは、大変残念なことでしたが、この間、選手の皆様は自主的にトレーニングに励み、また、コロナ禍で始まりましたオンライン教室などを活用して、体力維持に努めてこられたことと思います。

去年は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会、本年は、北京において北京2022冬季オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、障害の有無に関わらず、体と心を鍛えた選手の方たちの素晴らしい力を見せて頂き、多くの人の感動を呼びました。

「東京都障害者スポーツ大会」も同様に毎年、多くの方が、選手の皆様から大きな力をいただき、自分たちも頑張っていこうと思っています。

この大会には、ボランティアの方もたくさん参加され、競技をご覧になります。選手の皆様の姿が障害の有無に関わらず誰もがあらゆることに参加し、当たり前暮らしすることのできる共生社会の実現に寄与するものだと思います。

コロナ禍で十分な練習ができなかった方もいらっしゃるかもしれませんが、持てる力を十分に発揮して、悔いのない大会にしてください。

今回の大会は、新型コロナウイルス感染防止対策を入念に行ったうえでの開催です。今までの大会以上にご配慮いただいております大会関係者ならびに多くのボランティアの皆様に心から感謝申し上げますご挨拶とさせていただきます。



## 第23回東京都障害者スポーツ大会

ライオンズクラブ国際協会330-A地区

ガバナー 中井 正 力

(東京新宿ライオンズクラブ所属)

第23回東京都障害者スポーツ大会が公益社団法人東京都障害者スポーツ協会、並びに東京都との共催により盛大に開催されますこと、ライオンズクラブ国際協会330-A地区を代表して心よりお祝い申し上げます。

多くの参加選手にとって、この大会が選手諸君の日頃の練習の成果を発揮し、輝ける場になりますことを期待するものです。

私共ライオンズクラブ国際協会330-A地区のメンバーは、特別協賛させていただいている駒沢オリンピック公園総合運動陸上競技場における陸上競技に応援団を派遣し個々に選手の応援及び表彰台での“バンザイ”三唱を行い、選手諸君との交流をはからせていただきました。

今年は、コロナ禍の影響もあり、無観客開催になるとのこと、大変残念に思っております。昨年夏の東京パラリンピック、そして今年行われた北京の冬季パラリンピック、国際的な障害者のスポーツイベントが続きましたが、それに劣らず、当大会における選手の皆様方のスポーツに向き合う真摯な姿勢は、感動とパワーを私達に与えております。

今大会は、第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」の東京都代表選手選考会を兼ねての開催と伺っております。

記録を競うことも大事ですが、障害を乗り越えて前へ向かっていく選手の皆様の努力こそが記録を超える宝物ではないでしょうか！

どうぞ、怪我や体調を崩すことなく力の限り競技されますことを願っております。

結びにあたり、ご家族の方々、介護者の方々、大会支援のボランティアの方々、皆様方のご尽力に感謝申し上げますと共に、主催団体である公益社団法人東京都障害者スポーツ協会の更なるご発展を祈念申し上げ、激励の言葉と致します。



## ごあいさつ

公益財団法人東京都スポーツ文化事業団  
理事長 中嶋正宏

第23回東京都障害者スポーツ大会が、多くの関係者の方々の御協力を得て開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

本大会は、本年10月に栃木県で開催が予定されている第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」への東京都代表選手選考会を兼ねた都内最大規模の障害者スポーツの祭典で、全国大会出場という大きな目標につながる大会でもあります。また、当事業団が管理運営しております東京体育館、駒沢オリンピック公園総合運動場でも競技が実施されます。皆様が練習の成果を遺憾なく発揮され、熱戦が繰り広げられることを心から楽しみにしています。

さて、去年は新型コロナウイルスの感染拡大という特殊な環境下、無観客という形ではありましたが、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が無事開催されました。アスリートが練習を積み、最高のパフォーマンスを発揮する姿は、都民・国民に勇気と感動をもたらしました。ここで高まったスポーツ実施気運やパラスポーツへの関心といったソフト面のレガシーを、本大会が着実に受け継ぎ、障害者スポーツの競技力向上、理解・普及促進の契機となることを期待しております。また、1日でも早く新型コロナウイルスの感染拡大が収束するとともに、日本そして世界中のスポーツが再び活気づき、人々が心からスポーツを楽しむことができる明るい社会が訪れることを切に願っております。

当事業団は、本大会の成功はもとより、「スポーツフィールド・東京」の実現に向けた様々な取組に積極的に参画して参ります。その取組のひとつとして、都立の特別支援学校を障害者スポーツの拠点として活用する「都立特別支援学校活用促進事業」を、今年度は規模を拡充して実施いたします。都民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができるよう、これまで以上に障害者スポーツの振興に寄与して参りたいと考えております。

最後になりますが、公益社団法人東京都障害者スポーツ協会並びに本大会実行委員会の皆様方の御尽力に敬意を表しますとともに、大会の成功と選手の皆さんの御健闘をお祈り申し上げます。



## ごあいさつ

一般財団法人 東京都弘済会  
理事長 細井 優

第23回東京都障害者スポーツ大会が盛大に開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

ご承知のとおり、この大会は、障害のある方々がスポーツを通じて、自らの体力の維持増進及び社会参加と相互交流の促進並びに都民の障害者に対する理解の増進を図ることで、障害者の自立促進とスポーツ振興に寄与することを目的として開催されています。

昨年度は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、障害のある方々のスポーツについて大いに関心が集まり、日本中で、アスリートの活躍に心をおどらせることができました。

第23回東京都障害者スポーツ大会が、安心してスポーツに興じることのできる平穏で安定的な状況の下で開催できるとともに、選手や関係者の皆さまの日ごろの努力の成果がいかんなく発揮され、輝かしい結果をあげ、感動を与えていただけることを心から願っております。

一般財団法人東京都弘済会では、障害のある方々などに対する福祉事業等を多数実施しております。ミニコンサートや出前演芸会などのほか、在宅介護者交流ツアーなども企画しており、ぜひお越しいただきたいと思っております。

最後に、あらためて、本大会の運営にあたるスタッフの方々、関係団体及びボランティアの皆さまのご尽力に敬意を表するとともに、本大会に参加されるアスリートの皆さまのご健闘を心より祈念しまして、あいさつとさせていただきます。



## ご挨拶

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会  
会長 木村 恵 司

第23回東京都障害者スポーツ大会が多くのみなさまの参加により開催されますことを心からお慶び申し上げます。

一昨年から続く新型コロナウイルス感染症による感染が終息しない状況において、感染防止対策を工夫し安全に配慮された大会が開催できますこと、関係者のご尽力に心から感謝申し上げます。

昨年8月から9月に「東京2020パラリンピック」が、そして今年3月「北京2022冬季パラリンピック」が開催されました。パラアスリートの方々の活躍に私たちも大いに勇気づけられたことは記憶に新しいところです。

私ども東京都社会福祉協議会では、感染症の流行が3年目となり生活が困窮した方々が増えていく中、都民の生活支援のために生活福祉資金の特例貸付に関わっておりますが、こうした困難な時期だからこそ、みなさまの躍動する姿が、多くの都民に明るい希望をもたらすものと信じています。

一方で、日常的に障害者スポーツが地域スポーツとしても興隆し、障害者の可能性への理解が広がっていくことも、とても大切なことと考えております。それは地域における共生社会づくりにもつながるものです。

本会では、現在、中期計画を定め、「東京の多様性を活かした地域共生社会づくり」を推進しています。東京の「多様な地域」がもつ地域特性を大切にしながら、東京らしく「多様な価値観」を認め、「多様な主体」が活躍することにより、それぞれの地域生活課題を主体的に解決できる地域社会をめざすものです。そのためには、多くの関係者が手を携え、協力していくことが必要であり、本会においても、障害のある方々の社会参加とスポーツ活動を支援していく所存です。

最後になりましたが、あらためて第23回東京都障害者スポーツ大会のご成功を祈念いたしますとともに、参加される選手や大会の運営に関わる関係者、また、東京都障害者スポーツ協会のみなさまの益々のご活躍をお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。